



コード (分野)	19001 (8.福祉・人権・国際理解)
メニュー名	LGBTについて～自分らしく生きる～
校名(学年)	日野町立西大路小学校 第1～6学年
講師・支援者等	一般社団法人 LGB.T
学 習 名	LGBT-自分らしく生きること
教 科 等	行事(全校人権集会)
実 施 日	令和5年12月8日(金)10:30～11:30

《授業の流れ》

1 講師 長崎アンナさんのプロフィール～幼少期を知る。(インタビュアー 叶ともみさん)

- ① LGBT という言葉を聞いたことがある人？ 4年生児童1名のみ挙手

<性同一性障害>…性別違和

アンナさんは、「体と心が一致しない」トランスジェンダー

心の葛藤を繰り返し、母親的存在であった叶さんとともに生きてきた。

- ② いつ頃から気づいたか？

2, 3歳…「大人になったらお母さんみたいになる」

幼 児…「違和感」

小 学 校…ランドセルの色や体操服が男女で区別されていることで、自分が父親側にいなければならない不安を感じ、小2で体と心の違和に気づいた。

- ③ 嫌な思い出はあったか？

[小学校]

- ・ 赤いランドセルやスカートに憧れるものの、親や友だちや先生に「男だからダメ。男らしく…」と言われてから、こういうことは言ってはいけないことだと悟り言えなくなった。心が女性だと隠して生きることは一番つらいこと。
- ・ 男子トイレで恥ずかしいから「大」に入る。あだ名「大ちゃん」泊の旅行など恥ずかしいけれど我慢。「ホモ、オカマ…」と言われる。
- ・ 毎日絵を書いて遊んでいると、先生から「なぜ外に出てドッジをしない。男の子らしく遊んで来い。」と決めつけられたこともショック。
- ・ 言える人に言えない悩み(親や教師)…カミングアウト後の反応が怖い。

[中学校]

- ・ 制服が自由だったので私学の中学校へ入学して、地元から離れた。
- ・ しかし、からかい「女みたいやな…」はある。どこに行っても様々なハードルを越えなければならない辛さ、学校に行くことの憂鬱さは同じ…。
- ・ ダンスとの出会いで前向きになれた！！



「ダンスが好き」という同じ目的で集まった仲間は、性別も何も関係ない。
誰でも受け入れることができる仲間関係がある。
(学校はつらいが放課後にはダンスに行けるというだけで学校に行けた。)

2 アンナさんのその後を知る。

- ・歌の世界にデビュー…中国での歌謡祭に新人歌手として出場
(この頃でも、自分の中で性別についてまだ解決する術が分からない苦しさを抱えていた。)
- ・男の歌手として売れることへの不安・苦痛
そして・・・
- ・やりたいことなのにできない自分
⇒「自分なんか…」自分のことが嫌になった。
自信が無くなり、コミュニケーションが怖くなり、『引きこもり』時代へ。



- ・一番信頼できる叶さんにさえ悩みを打ち明けられない苦しさ。
(一番信頼している叶さんに否定されたらどうしようという不安)
- ・「誰でも同じ人間」そんな思いが頭をよぎる。その一瞬の気持ちのきっかけで自分が少し好きになれた。怖さからの脱却。
⇒「一人に知ってもらえたら楽になるのではないか…」
思い切って叶さんに打ち明けることができた。(カミングアウト)
⇒叶さんは否定しなかった！！
⇒一人にでもわかってもらえたことで、やっと強くなれた。



3 様々なチャレンジと思考のループの変換について知る。

- ・ウェディングドレスを着たい→モデルに応募→断られる「今までにないから」
諦めずに次のところへ依頼→「自分が前例になろう」→夢が叶う。

<まとめ>

- ☆カミングアウトをして一人でも分かってくれたことで、新しいことにチャレンジできるようになる。(「自分のことを好きになる」ことが大切。)
- ☆学校は、思いが「閉じ込められた」場所であった。
- ☆ストレート・アライ(味方)の存在は大切。
- ☆「予期不安」が生む「負のループ」
…焦りと緊張の「感情」、無理な頑張りへの「行動」
「考え方」「行動」「感情」のトライアングルループをいい方向に回す。

◎理解はしていなくても、できなくても、その人を否定しないで！！
先ずは知ってほしい。

<感想等>

児童

- ・その人はその人として産まれたから、「違う」という理由でいじめられるのは悲しい。困っている人がいたら、話してもらえ人になりたい。(6年)
- ・昔は、男だったら・女だったらというルールがあったというのが、なぜなのだろうと思った。そのせいで、辛い思いをする人が続いていたのかなと思う。(5年)
- ・昔は認めてもらえなかったけど、今は認められないことはなくてよかったですと思いました。私も、性別や好きなことに関係なく、相手を認め合いたいです。(5年)
- ・今日の話聴いて、自分らしく生きていいことに気づきました。友だちが、「自分らしく生きていいのかな」と悩んでいたの、今度出会ったら、今日の話をしてあげたいです。(5年)
- ・アンナさんは、男として生まれたけど心は女だったけど、それだけじゃなくて、女の子の人が女の子の人を好きになったり、男の人が男の人を好きになったりするの、普通なんだと分かった。(5年)
- ・性別のことで不安な思いを持っていたアンナさんだったけど、「みんな一緒に生き物だ」と思って、自分らしく生きようと思ったことが分かった。(2年)
- ・これからしていきたいことが2つあります。1つ目は、「否定しない」ことです。今日のお話を聴いて、否定したら人が傷つくことが分かりました。2つ目は、人の話をうなずいて聞くことです。うなずいて聞くと、相手が安心すると思いました。自分を振り返ると、今までに否定して傷つけたことがあるので、これからは「否定」しないようにしたいです。(2年)
- ・アンナさんは、小学校では男女のものがちがって悲しんでいたし、いやがっていた。自分を嫌いになるより、これからも、自分を好きになったほうがいいと思った。(2年)
- ・自分を好きになりたい。いやなことがいっぱいあって、辛そうだった。わたしも誰かに言われたことじゃなくて、自分で決めたことをやりたい。(2年)



学校

- ・アンナさんが、辛い思いをしておられたことが、強く伝わりました。その辛い思いをしたのが、学校という場所の決まりであったことに関して、教師である自分も今まで知らず知らずに傷つけていることがあるかもしれないと思いました。また、教師自身の言動もそうですし、学校設備のトイレや更衣室も、誰もが安心して使えるような配慮が必要だと思いました。そして、何よりも子どもたちの話を聴いて認めてあげる、これからについて一緒に考えてあげられる教師でいたいと改めて思いました。LGBTについては、本校の人権集会ではこれまで取り上げられてこなかったテーマであるので、今回のご講演は大変よい機会になりました。



支援者・講師

- ・児童のみなさんが、真剣に話の内容を聴いてくれて嬉しくなりました。この講演をさせていただいた意味があったと思っています。教職員の方々もしっかり受け止めてくださっていたのだとよくわかりました。過去の自分のような悩みを抱えている人が、前向きに自分らしく生きていくきっかけに少しでもなれたらと、これからも頑張りたいと思います。

